

令和2年度九州森林管理局林野公共事業評価技術検討会 議事概要
(完了後の評価)

1. 日時 令和2年8月27日(木) 14:00~15:00
2. 場所 九州森林管理局 4階 第2会議室
3. 出席者 技術検討会委員 藤掛委員長、寺岡委員、黒川委員
九州森林管理局 森林整備部長、計画保全部長、企画調整課長、治山課長、森林整備課長、
専門官(災害調整担当)、監査官、企画調整係
4. 議題 森林整備事業(森林環境保全整備事業)
佐賀東部森林計画区、始良森林計画区
5. 議事概要
(専門官(災害調整担当)より事前評価実施地区一覧表及び個票等について説明、その後に質疑応答)

(委員)

100年確率時雨量に関するプログラムの基礎となる係数の雨量データは2000年までのデータであり、今年度は問題ないが、今後継続して使うとすれば、昨今の雨の量は増えていることも考えると若干不具合が出てくる可能性があるためデータの使用の期限については考える必要がある。10年ごとに平年値が更新されることを考えると2020年が限界ではないかと考える。

(九州局)

雨量についてはご指摘のとおりである。来年度新たな数字に入れ替わるという情報は入ってきているので、来年度以降は新たな数値で計算をすることとなる。

(委員)

総事業費についてはH22の評価時点と比べて減っている。これは計画したが実際には着手しなかった箇所があることが原因になっているのか。

(九州局)

事業計画と実績の差が原因となることもある。精査しなければ確定的なことは言えないが、一つは入札によって予定価格より実際の事業費が下がり、計画と実績に差が出るのが考えられる。やるべきところは災害等で林地が林地ではなくなる限り実施はしている。

(委員)

路網整備については計画段階ではあげていても実際はできなかった場合もあるのか。

(九州局)

そういった場合もある。

(委員)

最終的にはB/Cを見るのが大事になってくるが、完了後の評価ということで数年経ってから振り返るとなると、計画に対して実績がどうだったかが示された方が分かりやすいと思う。

①費用便益分析の算定基礎となった要因の変化の中で、H22時点の評価時点と現時点の計算で数値の差異の要因は単価の変化やデフレーター適用等と書かれているが、事業が計画とは数量的に違うということも影響しているように感じる。

また、単価の変化やデフレーター適用等と書かれているが、単価の変化というのは具体的にどのようなものなのか。

(九州局)

労務費が変化するとそれが全体に反映される。

(委員)

P5費用集計表の2011年～2015年の事業費は実績だと思うが、そのあとの2016年以降の数字は単価を変えて計算しているのか。それとも元のままの単価なのか。

(九州局)

単価を変えて計算をしている。毎年新たな単価で計算している。

(委員)

計画時点ではあがっていたが、実際には行わなかった分は除いているのか。

(九州局)

除いている。実行した数字のみを反映している。

(委員)

2016年～2019年の4年は実績の数字が入っているのか。それとも実績は関係ないのか。

(九州局)

あくまでも計算上の数字である。実績は2011～2015年の5年間のみである。

(委員)

実績の数字を入れることはどうなのか。事業が終わって4、5年経ってやるのであれば実績に代えて、今後の維持管理費をこのくらいだと想定していたが実際は違っていたという比較をするなどの工夫もできるのではないか。

(委員)

森林整備事業について更新と間伐はどう使い分けられているのか。更新と間伐のそれぞれの意味合い、例え

ば二酸化炭素の貯留や水源涵養への影響等、本来は異なると思うが、現状そういったことは考えずに面積で一括して評価しているのか。

(九州局)

現状では一括して面積を計上し評価している。

(委員)

更新面積はこの流域では 88ha であり、間伐に比べると非常に小さく大きな影響はないと思うが、計算式を見ると間伐をイメージした設定で作られているように感じたので、更新の場合に使えるのかどうか疑問に感じた。今後の検討事項として欲しい。

(委員長)

意見が出尽くしたようですので、これまでの説明を踏まえ、技術検討会による意見の取りまとめを行いたい。完了後の評価においては、「費用便益分析結果、森林・林業情勢その他社会経済情勢の変化、また、森林整備事業の積極的な実施により、水源涵養や山地保全、木材生産等の森林の持つ多面的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認める。」として取りまとめてよろしいか。

(委員)

異議なし。